

廃棄物の排出抑制とリサイクルの推進

循環型社会の形成を見据え、廃棄物の発生抑制と効率的なリサイクルを推進しています。

廃棄物削減及び社外リサイクルの推進

ケイミーでは産業廃棄物発生量の削減に向けて、“社外処理委託重量原単位”という指標(生産重量に対する社外処理委託重量の比率)を設け、社外処理委託重量原単位を毎年2%削減することを目標に取り組んでいます。

2017年度の社外処理委託重量は2.06万トンで前年比約5%増加、社外処理重量原単位は18.4kg/tで約0.4%増加し、目標を達成できませんでした。

悪化要因は通常の生産活動でのトラブルによる不良品、汚泥の増加(小田原、北九州)、新商品生産立ち上げ時の不良品の増加(足利、伊賀)、生産ライン改造工事に伴う不要設備類の廃却(北九州)などによります。

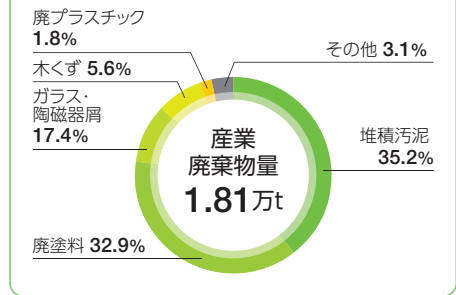
社外処理委託重量の内、産業廃棄物重量は1.71万トンから1.81万トンに悪化し、社外リサイクル率は96.9%で目標値99.0%以上に及びませんでした。これは中間処理が困難な複合素材を使用している新商品の生産量増加に伴い埋立処分量が増加したためです。

なお、廃棄物の有効利用を模索し、従来産業廃棄物として処理されていたものを有価物処理への切り替えを推進中です(鹿島)。

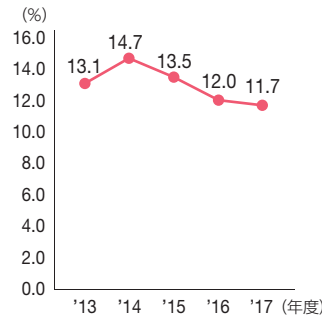
社外処理委託内訳



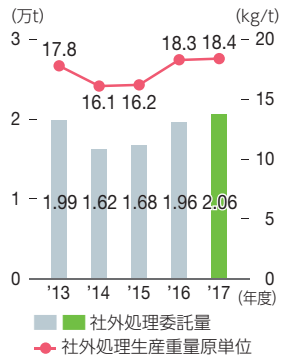
産業廃棄物内訳



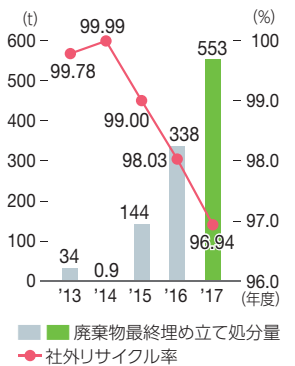
有価物化率の推移



社外処理委託量と重量原単位の推移



廃棄物最終埋め立て処分量・社外リサイクル率の推移



TOPICS

廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用活動が評価され小田原工場が表彰を受けました

神奈川県地域県政総合センターでは、環境保全の活動に積極的に取り組み、その業績が、広く県民の模範となる事業所を所長表彰しています。2017年度の県西地域県政総合センター所長表彰に小田原工場が選ばれ、6月26日に表彰式が行われました。

小田原工場は2007年に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得して以降、廃棄物に関しては2010年にゼロエミッションを達成、年間の社外処分量を2014年から継続して1,000トン未満を維持するなど、環境保全の実効性に関わる業務改善を進めてきました。また、木製パレットのチップ化、フレコンバッグの再利用など有価リサイクル処理の推進、汚泥の排水処理

過程で生じる脱水ケーキの原料への還元に取り組み、日量5~6トンの汚泥を主原料化しています。

廃棄物の発生を抑制するだけでなく、それらを積極的に再使用・再生利用する—こうした工場が一体となった活動が評価され、今回の所長表彰となりました。

